

「小中学生や子供たちに農業について興味を持ってもらい農業高校生を増やしていくために我々クラブ員は何が出来るか。」

クラブ員代表者会議 北信越ブロック 富山県立小矢部園芸高等学校
園芸科 3年 河合 展冨
園芸科 3年 竹部 一星
園芸科 3年 上原 白聖

1 はじめに

(1) 小矢部園芸高校の紹介

小矢部園芸高校は昨年創立70周年を迎えました。平成7年からは定時制課程、昼間単位制の園芸科をもつ高校として、地域から愛されています。昼間定時制の学校ですが、月曜日から金曜日まで、毎日6時間の授業が5日間あり、全日制と同じような授業形態です。さらに2年次からは、野菜・草花・造園の3つの分野に専攻が分かれており、専門的な学習をすることができます。また、私たちが在籍している本科の他に、園芸への興味関心の高い方や造園に関する知識・技術の習得を希望される方が、週1回登校して学ぶ専攻科が開設されています。

毎年人気の野菜苗・花壇苗販売は今年度も予約が殺到し、大好評でした。また、所在地である小矢部市との連携が強く、石動駅前のプランターの管理を委託されています。農業科単独校として地域に愛されている本校ですが、全校生徒が年々減少しており、近年は定員40名に対し、1学年20名を下回るが増えてきています。日々の農場管理や学校行事でも生徒不足が垣間見え、このままでは今まで繋いできた地域と学校の連携が途切れてしまいます。そのため、農業高校生を増やしていくことは学校の伝統を繋ぐための早急の課題と言えます。

(2) テーマの考察

テーマにあるように農業高校生を増やしていくためには、これから入学が期待できる小中学生や子供たちに興味を持ってもらうことが大切だと考えられます。毎年8月にオープンハイスクールを実施し、模擬授業を通して農業高校の楽しさを感じてもらう機会は作っていますが、入学者は減少の一途をたどっています。一方で、本校専攻科は体験活動等を行っていないにもかかわらず毎年定員を十分に満たす入学志願者がおり、倍率が2倍近くになった年もあります。この違いを考えたところ、農業高校の若者への認知度の低さが原因ではないかという意見が出ました。

知識として農業という仕事があることは知っていますが、現代において大抵の子供たちにとって食べ物は買うものであり、農業や農業高校の存在をあまり意識することがないの

ではないかと考えられます。実際に農業高校へ入学した僕たちの中には、中学3年生の進路を決めるときに先生に言われて初めて農業高校の存在を知った人もいます。一方で専攻科への入学を希望される大人の方は、長い人生経験の中で農業の重要性を知ったり、農業高校の存在を知り魅力を感じたりすることができるため、入学志願者の確保に繋がっているのではないかと考えました。

そこで僕たちクラブ員が学校の伝統や魅力を地域に発信し、農業高校のことを見聞きする機会や場所を増やすことで、小中学生たちにも農業高校の存在を認識してもらうことができるのではないかと考えました。そして認識してもらうことが農業について興味を持つきっかけとなり、農業高校への進学を意識づけてもらうことにも繋がると思います。

2 本校の取り組み

私達が教科や農業クラブの活動で取り組んでいることに次のようなものがあります。

(1) 野菜販売を通して農業高校を知ってもらう取り組み

①近隣中学校での野菜販売

小矢部市内の中学校で収穫物の販売を行っています。学校で行う即売会と異なり、中学校に出向いて行うため農業高校について知らない中学生にも農業高校生の姿を見てもらうことができます。



数年間販売を続けた実績から、今年度は嬉しいことに中学校の学園祭に出店しないかという

お声かけをいただきました。不定期の野菜販売よりも学校のPRがしやすく、長い時間中学生の目にとまるため農業高校の存在をより広く知ってもらえると思います。また、このような中学校と関わる活動を継続することで、より深い関わりや興味を持ってもらう機会が作れるようになり、中学生に農業への興味を促すきっかけに繋がっていくと確信しています。

農業高校の存在は知ってもらえるものの、現在行っているのは野菜の販売のみであり、中学生自身が進んで買おうとすることは少ないため農業高校の魅力は伝わりづらいかもしれません。そのため、より中学生の興味を引く販売物を準備することが今後の課題だと考えています。

②農産物を活用した商品の販売

本校の農産物即売会では、伝統として学校で栽培したサツマイモを活用した焼き芋販売を行っています。できたての焼き芋は毎年大変好評です。特に親や祖父母に連れられた幼い子供達にとって、その場で食べることでできる焼き芋は魅力的であり、私たちが作った甘いサツマイモの魅力を体感してもらう良い機会となっています。

例年即売会時のみに販売を行っていた焼き芋ですが昨年は、試験的に校内での販売を数回行いました。放課後のちょうどお腹がすく時間帯に販売をしたこともあり、多くの焼き芋を買ってもらうことができました。本校の焼き芋は非常に甘く、リピーターがつくほどです。普段、校内販売の野菜を買わないクラブ員も焼き芋は購入することが多く、この傾

向は中学生でも同様だと思います。そこで、中学校の即売時にこの焼き芋を新たな販売物に加えることで農業に興味を持ってもらうための販売物になるのではないかと期待しています。

③学校外での野菜販売

今年初めての取り組みとしてアルビス株式会社と連携し、スーパーの店頭で野菜販売を行いました。開店前から想像以上にたくさんのお客様が待っておられ、農業高校への期待と需要を感じることができました。普段買い物をする場所で販売したことで、学校で行う即売会にお見えにならないお客様も立ち寄りやすく、多くの皆様に私達の農産物の魅力をアピールできたと思います。チラシでのPRも行っており、この活動を継続することにより家庭内で農業高校の話題が出る機会を増やすことに繋がっていくと考えます。



(2) 景観の整備や地域活動を通して農業高校を知ってもらう取り組み

①小矢部市との連携 石動駅前のプランター管理

本校は市より委託されて石動駅前や小矢部市内数カ所のプランターを整備しており、この活動は今年で18年目になります。季節に応じた花々は景観を華やかにし、市民の皆さんから愛されています。一方で、この活動は小矢部園芸高校の名前があまり出ることは無く、長く続いている活動であることも相まって当たり前の光景になってしまっています。農業高校が管理をしている事をもってアピールすれば、きれいな花によって、小中学生に興味を持ってもらえる機会になるのではないのでしょうか。

このように、既に行っている活動を見直すだけでも、農業高校や農業の魅力を小中学生に知ってもらう機会が作れることに気づきました。



②地域貢献活動

小矢部市の観光名所で植栽を行い、景観を良くしようという計画のもと、約170㎡の面積にクラブ員でデザインを考えて花苗の植栽を行いました。1000ポットを超える花苗の植栽は大変でしたが、殺風景だった場所が、一面に草花が広がる美しい場所になりました。他にも、本校では地域のロータリークラブと協力しオミナエシの保護活動を行ったり、管理団体と協力して大谷公園の植栽を行ったりと地域と連



携した活動を行っています。これらの活動場所は地域の小中学校も校外学習でよく訪れる所であり、農業高校の活動が目に見えるようにしています。

また、地域貢献活動をはじめ、課題研究の成果などは新聞記事にも取り上げていただき、農業高校の活躍のPRとなっていると思います。

(3) 中学生に農業の魅力を知ってもらう取り組み

① 高校生による学校説明会

中学校へ訪問し、クラブ員が学校の紹介を行う、中学校訪問を毎年11月ごろに行っています。中学生にとっては実際に現役の高校生から直接説明を受けることで学校への理解を深める良い機会となっています。



② 中学校への出前講座

平成30年度には庭園管理の依頼を受けた延長として、本校の造園系列の生徒が指導者となり、進学を控える中学3年生に学習内容の紹介、実技指導を行う出前講座を行いました。残念ながら、その後継続しては行えていませんが、この講座が楽しかったため受験を決めたという入学生もおり、農業について体験してもらうことが興味を持つきっかけになると考えられます。

3 まとめ

(1) 農業高校に進学しない理由

おいしいもの、きれいなものを生産するやりがい、消費者に喜んでもらう魅力が農業にはあります。それにも関わらず、小中学生が農業に興味を持たない、農業高校に進学しないのは、農業に興味を持つ機会や農業高校の存在を知る機会が少ないことが原因だと考えます。

(2) 私達の取り組みについて

学校の紹介として取り組まれているオープンハイスクールや校内の即売会などの学校内の取り組みだけでは、興味をもっている小中学生しか参加しません。このことから、地域に足を運びいろいろな活動を自分達から発信していくことが大切だと考え、取り組んできました。今まであたりまえのこととして行っていた活動も、視点を変えることで新たなPRの方法が浮かぶ事もあると気づくことができました。

また、今回の活動を通して私達自身も学校の様々な活動を入学してから知ったことに気づきました。より小中学生に興味を持ってもらうためには、年代の近い私たち自身が『楽しい』と思う活動や『農業高校に来て良かった』と思うことをPRしていくことが必要なのではないでしょうか。

クラブ員が感じる学校の伝統や魅力を発信し小中学生たちに伝えていくことで『農業を学ぶ高校があるのか』『農業高校もありかも』思ってもらえるように変えていけたら良いと思います。